

ニセケバエ科 Scatopsidae

ver. 2019/01/21



ニセケバエは体長2-3mm以下の小さなハエの仲間です。生態はよく分かってないようですが、時に、家屋のそばや植木鉢で大量発生するので有害昆虫となっています。MNDによると、幼虫は腐敗した植物や動物の排せつ物に発生し、ときに球根や玉ねぎ、果物工場の廃棄物などからも発生するようです。MCADによると、世界中で4亜科33属が知られています。ただ、日本ではCIJに載っている種がsppを含めて5属6種。驚くほど少ないので、たぶん、日本ではあまり調べられていないのではと思われます(最近の報告[1]では日本産は30%解明とのことです)。翅が長く、特徴的なので、マンションの廊下ではよく見かけます。でも、資料がなくて調べようがないので諦めていたら、旧北亜区を扱ったCMPDを送っていただいたので、急遽調べてみることにしました。その結果、どうやらマンションでは少なくとも2種が時期をずらして発生しているようです。なお、この科で用いる文献の略称は以下の通りです。

文献の略称

MND: Manual of Nearctic Diptera Vol. 1 (1981). ([ここからダウンロードできます](#))

MCAD: Manual of Central American Diptera Vol. 1 (2009). ([ここ](#)で一部読むことができます)

CMPD: J.-P. Haenni, "2.12 Family Scatopsidae", in L. Papp and B. Darvas (eds.), "Contributions to a Manual of Palearctic Diptera (with special reference to flies of economic importance)", Vol. 2 Nematocera and Lower Brachycera, Science Herald, Budapest pp. 51-69 (1997).

CIJ: 日本昆虫目録編集委員会、「日本昆虫目録第8巻双翅目」、権歌書房(2014).

[1]中村剛之、「『日本昆虫目録 第8巻 双翅目』の出版と日本産双翅目相の解明度について」、昆虫(ニューシリーズ) 19, 22 (2016)

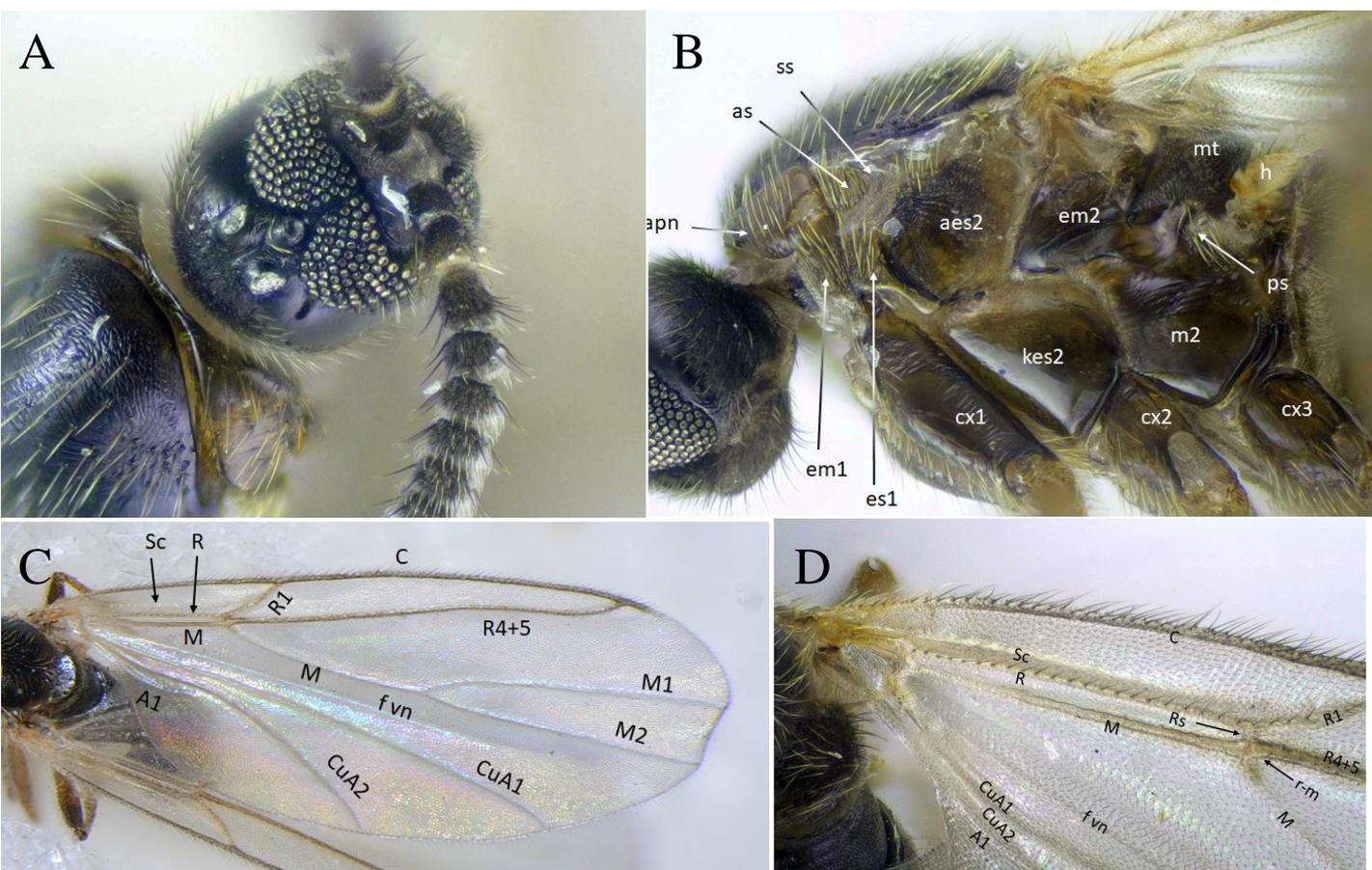
ニセケバエ科の分類と特徴

「絵解きで調べる昆虫」(文教出版、2013)の中
の笹川満廣氏の「双翅目昆虫の絵解き検索による
分類」によると、ニセケバエ科の科の検索は次
のような手順を進みます。

- ①長角亜目
- ②ガガンボ類以外(胸背にV字型のしわがない)
- ③翅に二次脈はない
- ④C脈は翅を全周しないで途中で止まる
- ⑤中室はない
- ⑥単眼はある
- ⑦第2基室はない
- ⑧中・後脛節に距棘はない
- ⑨Rs脈は分岐しない

MCADによるとニセケバエ科の亜科、族の分類
は次のようになっています。なお、和名はCIJに
依っています。

- Aspistinae (カドムネニセケバエ亜科)
- Ectaetiinae
- Psectrosciarinae
- Scatopsinae (ニセケバエ亜科)
 - Rhegmoclematini
 - Scatopsini (ニセケバエ族)
 - Colobostematini
 - Swammerdanellini (ナガサキニセケバエ族)



写真Aは*Apiloscatopse*属と思われる個体の頭部後方からの写真です。左右の複眼がくっついていて、その隙間に単眼が入り込み、面白い形状をしていることが分かります。Bは胸部側面の写真です。詳細は[ブログ](#)か別冊をご覧ください。CとDは翅脈です。この個体の翅脈の特徴としてはR4+5が長く伸びていること、M脈とRs/R4+5脈がX字型にはほぼ一点に交差し、その間に短いr-m横脈が見られること、M脈とCuA1脈の間に擬脈(f vn)が見られること、M脈が分岐した後、二つの分枝は緩やかに翅縁に達していること、CuA2脈が緩やかに湾曲していることなどが見られます。これらの特徴が亜科、族、属の検索表には出てきます。

ニセケバエ科は日本での研究が進んでいないので、検索するときには多くの属を含んだ検索表を使う必要があります。そこで、手元にあるいくつかの検索表でどの属を含んでいるかをまとめてみました。

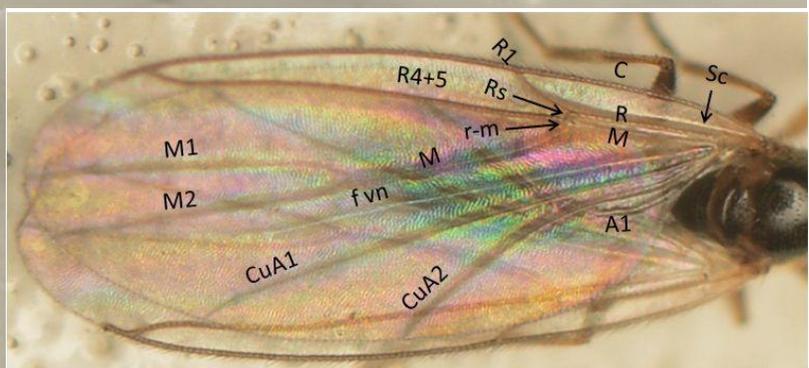
subfamilies	tribes	CIJ (2014)	MCAD (2011)	MND (1987)	CMPD (1997)	
Aspistinae		○	<i>Aspistes</i>	○	○	
			<i>Arthria</i>	○	○	
Ectaetiinae			<i>Ectaetia</i>	○	○	
Psectrosciarinae			<i>Anapausis</i>	○	○	
			<i>Psectrosciara</i>	○	○	
Scatopsinae	Rhegmoclematini		<i>Diamphidicus</i>			
			<i>Holoclema</i>			
			<i>Parmaferia</i>			
			<i>Thripomorpha</i>			
			<i>Rhegmoclema</i>	○		
			<i>Parascatopse</i>	○	○	
			<i>Neorhegmoclemina</i>		○	
		○	<i>Rhegmoclemina</i>	○	○	
			<i>Austroclemina</i>			
	Scatopsini		○	<i>Scatopse</i>	○	○
				<i>Apiloscatopse</i>	○	○
				<i>Reichertella</i>	○	○
				<i>Pharsoreichertella</i>		○
	Colobostematini			<i>Borneoscatopse</i>		
				<i>Holoplugia</i>	○	
				<i>Lumpuria</i>		○
				<i>Colobostema</i>	○	○
				<i>Cookella</i>		○
				<i>Ferneiella</i>	○	○
	Swammerdamellini			<i>Pararhexosa</i>		
			○	<i>Swammerdamella</i>	○	○
			○	<i>Coboldia</i>	○	○
				<i>Hawomersleya</i>		
				<i>Rhexoza</i>	○	○
				<i>Akorhexoza</i>	○	
				<i>Quateiella</i>	○	○
				<i>Abrhexosa</i>		
			<i>Cooka</i>			
			<i>Brahemyia</i>			

Apiloscatopse 属の一種？

2016/12/31



2018/12/21



マンションの廊下ではこの写真のようにやや大型(体長2mm内外)でRs/R4+5脈が長く、脚の色が全体に淡褐色で腿節末端だけがやや濃褐色の種が12月中旬から1月初旬にかけて見られています。左下の写真は2018年末に採集した個体です。その右側の写真が翅脈です。翅脈の特徴として、1) r-m横脈が存在、2) M脈とCuA1脈の間に擬脈(fvn)がある、3) 前縁脈(C)の第2区分は第1区分より長い、4) M脈の分岐は対称的、5) R4+5脈は翅長の2/3を優に越える、などがあります。これらの特徴から、ニセケバエ亜科(Scatopsinae)ニセケバエ族(Scatopsini)の*Apiloscatopse*属ではないかと思っています。ただ、この属が本当に東アジアに分布しているかどうかは定かではありません。ブログと別冊に各部の拡大写真と検索の詳細(1, 2)にまとめました。



左は前頁の同種かもしれませんが、何となく翅が長く、前脚腿節の色が濃い感じがしました。右は腿節の色は淡色です。この辺りは個体変異かもしれませんが、一応、写真だけ載せておきます。

クロツヤニセケバエ？ *Scatopse notata*

2015/03/20



2017/03/23

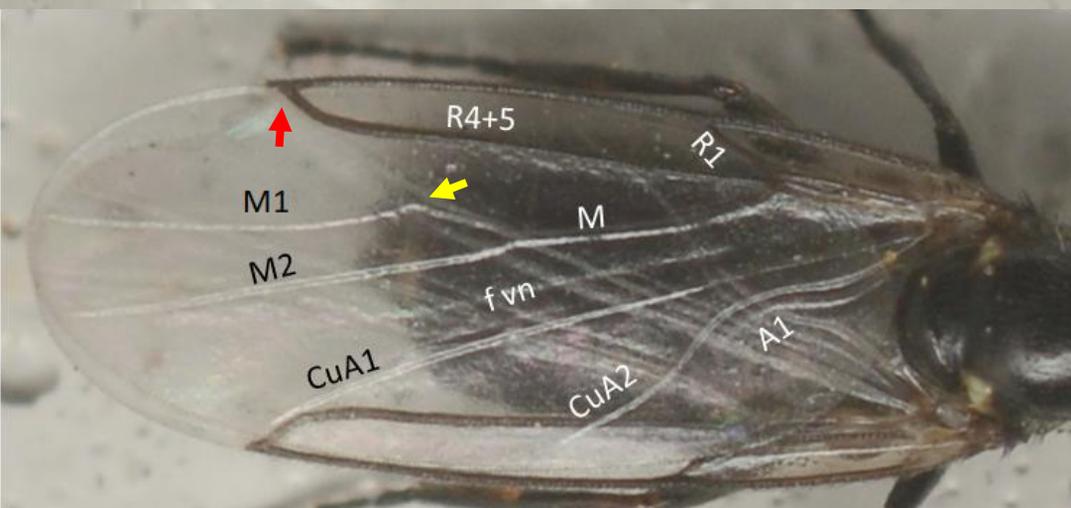


2017/04/06

これもマンションで見られたものですが、体全体が黒く、盾板後方隅と側面、それに、腹部第1節側面に白い斑紋があります。また、翅のRs/R4+5脈は前種よりは長くはなく、脚が黒いのが特徴です。この種は2月下旬から4月初旬と11月に見られていて、左下写真のように交尾中の個体もよく見かけます。右下の写真は4月初めに見たものですが、数匹の個体が糸を張った壁面で固まっていた。何をしているのか分かりません。次ページに書いたようにこの種は*Scatopse*属だろうということが分かりました。さらに、CIJを見ると、日本産で記録されているのは*notata*一種です。この種は世界的に分布している種で、ネットで探すと上の写真と同じ場所に白い斑紋がありました。たぶん、*Scatopse notata* (クロツヤニセケバエ) かもしれません。

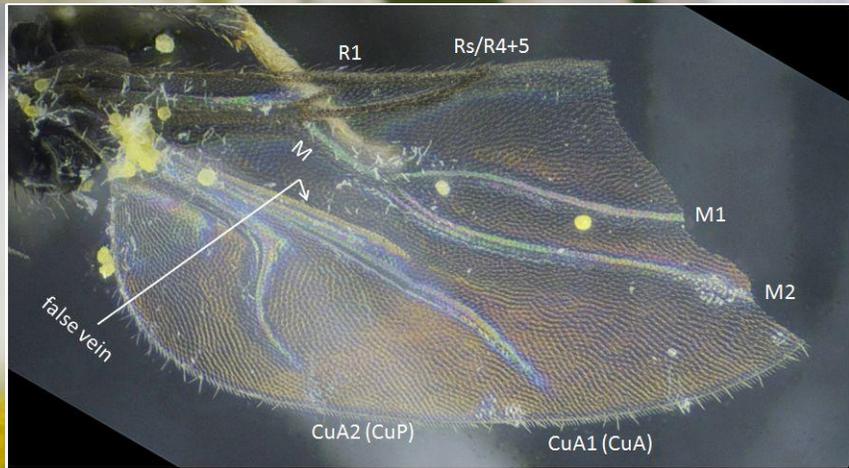


2014/03/15



前頁と同じ種だと思われませんが、形態的な特徴がはっきりしているのもう一度載せておきます。外観的には全体が黒く、盾板後方と側面左右に1対の白い斑紋があるのが見えます(写真上)。また、翅脈のM1脈が基部近くで角度を成して曲がり(写真下:黄矢印)、R4+5脈は翅長の約2/3で(赤矢印)、*Apiloscatopse*属だと思われる個体に比べるとかなり短い感じがします。また、CuA2脈はかなり波打っています。これらのことから、*Scatopse*属が考えられます。

Swammerdamellini族の一種



これは川の土手に咲いていたヒメジョオンにいたニセケバエです。写真がうまく撮れなかったのと、採集した個体の翅が破れてしまったのではっきりとは分かりませんが、右下の写真からRs/R4+5脈が前二者に比べるとかなり短いことが分かります。体は全体的に黒で、脚は暗褐色です。採集したときにはMNDで検索したのですが、ニセケバエ亜科(Scatopsinae)ナガサキニセケバエ族(Swammerdamellini)のCoboldiaなど4属のうちどれかだろうというところで終わりました。その後、CMPDでも検索をしてみたのですが、最後、交尾器の形状が分からないので、結局、*Quateiella*, *Coboldia*, *Rhexoza*の3属のどれかであろうという結果になりました。この辺りであることだけは確かそうです。